

病院からのお知らせ

平成22年度 板橋区健診のご案内

板橋区無料健診を平成22年10月30日(土)まで実施しております。9月下旬から10月末にかけては混雑が予想されます。まだご受診されていない方はお早めにご受診ください。ご来院の際は、健康保険証と板橋区役所発行の受診券をご持参ください。

対象者：36歳以上の板橋区民対象(※元気力健診は65歳以上の方)

◎検査項目 **すべて無料です**

- ①問診・診察・身体測定(身長・体重・腹囲)・血圧測定
 - ②検尿
 - ③血液検査
 - ④心電図検査
 - ⑤眼底検査
 - ⑥胸部レントゲン検査
- ※生活機能に関する問診・血清アルブミン検査等(元気力健診)

◎大腸がん検診 ◎肝炎ウイルス検診 ◎前立腺がん検診 同時受診可能(要受診券)

実施日時：平成22年6月1日～平成22年10月30日 **10月16日・23日・30日の土曜日は午後も実施します**

受付時間：月～金曜日 午前8：30～午後4：00(12：00～2：00を除く)

土曜日 午前8：30～午後12：00

受付場所：板橋中央総合病院 B館1階 地域健康相談室(成人健診受付)

予約不要！
ご受診ください

平成22年度 板橋区がん検診のご案内

大腸がん検診・肝炎ウイルス検診・子宮がん検診・乳がん検診 **要予約**・前立腺がん検診・骨粗鬆症予防検診を実施しております。10月より喉頭がん検診、11月からは眼科検診を実施いたします。院内掲示板、ホームページでもご案内しております！

お申込み・受診券のお問い合わせ先・・・板橋区役所 健康推進課成人健診係 03-3579-2312
受付時間などのお問い合わせ先・・・板橋中央総合病院 B館1階地域健康相談室 03-3967-1198

第137回 無料公開医療講座 開催決定

失神、めまい、危険な突然死もある！「中高年の心臓異常！不整脈」

日時：平成22年10月26日(火) 午後3：00～午後4：30

講師：循環器科副部長 副島 洋行 医師

場所：板橋中央総合病院 E館2階 講堂

対象：どなたでもご参加できます(定員60名)

ご予約は地域健康相談室まで
03-3967-1198

基本方針

- ①地域住民、地域医療機関と密着した医療と連携
- ②24時間救急医療体制(高度2次)
- ③何人も平等に受けられる医療
- ④医療人としての自覚と技術向上のための教育
- ⑤最新医療機器の導入による高度な医療

理念

「まず愛し、そして愛される病院」
～ 一人でも多くの幸せを！ ～

編集後記

食欲の秋！読書の秋！スポーツの秋！猛暑を越したこの季節は一年でいちばん過ごしやすい季節です。その中でもやはり食欲。秋が旬の食材は、美味しく、栄養価も高く、しかも経済的。しかし、食べ過ぎは肥満につながります。よく噛んでゆっくり食べ、まめに体を動かし、「太らない食生活」を身に付けましょう！
今回は、当院と連携をとっている医療機関をご紹介いたしました。今後も地域の先生方と一層の連携・協力体制を築き、地域医療に密着した患者さまサービスの向上に努めていきたいと考えておりますので何卒よろしくごお願いいたします。
当院では板橋区各種健診を実施しております。健診の目的は、「病気の早期発見と早期治療」そして「予防」です。対象の方は積極的にご利用くださいませ。
秋の夜長にはお友達やご家族、または本を片手におひとり・・・温かいお茶を飲みながら、忙しい毎日においてゆったりとした時間を楽しんでくださいね。
広報 川添 理菜

板橋中央総合病院 地域広報誌
PLAZA IMS (プラザ イムス)
Vo.31 仲秋号
発行：板橋中央総合病院 地域健康相談室
発行日：2010年9月10日
医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院
〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-12-7
TEL 03(3967)1181
E-mail: koho.ibh@ims.gr.jp
http://www.ims.gr.jp/itabashi.hp/



板橋中央総合病院
板橋セントラルクリニック
地域広報誌

PLAZA IMS

平成22年9月 Vol.31 仲秋号
プラザ イムス

あらゆる疾患に対応

きずの小さな手術「腹腔鏡手術」とは？

板橋中央総合病院 外科 黒崎哲也医師



皆さまは「手術」と聞いてどのようなイメージをお持ちですか？「不安」「切開する」「きずが残る」「術後の痛みがある」などを思い浮かべるとと思います。最近、ニュースなどでよく耳にする“腹腔鏡手術”の最大の特徴は、身体への負担を少なくすることです。平成22年6月に入局されました、外科 黒崎哲也医師がご挨拶とあわせて解説いたします。

あらゆる疾患に対応

腹腔鏡手術は、胃、大腸、脾臓、小腸、ソケイヘルニア……あらゆる疾患に対応しております。良性、悪性いずれの病気も腹腔鏡手術の対象となってきます。ところで腹腔鏡手術というのはどのような手術かご存じでしょうか？簡単にいうと、おなかに小さな穴をあけて、そこから入れたカメラや細い器械で行う手術です。きずも小さく、痛みも少なく、回復も早い手術とされています。

早期退院・社会復帰が可能

腹腔鏡手術は、術後の回復が早く、入院期間を短縮でき、早期に社会復帰が可能です。また、開腹手術に比べると臓器に直接触れることが少ないため、手術後は腸管が腹壁にくっつく(癒着)可能性が低く、術後に腸閉塞がおきにくいので患者さまにとっても優しい手術方法と言えます。ご自分がおなかの手術を受ける場合、大きなきずと小さなきずどちらがよいですか？痛みが多いのと少ないのではどちらがよいですか？短期間の入院と長期間の入院ではどうですか？同じ入院期間でも無理なく入院生活を送ると、辛さを感じて送るのではどうでしょう？ほとんどの方が前者を選ばれると思います。私は常々、日常生活の延長線上で入院・治療生活を送ってもらいたいと考えています。そのためにはいかに楽で辛くなく、そしてできるだけ早く元の日常生活に戻ってもらうかが重要です。

それを実現可能にする“道具”の一つが腹腔鏡手術なのです。実は、はっきり言いますと、1年後の状態は腹腔鏡手術も開腹手術もきずの大きさ以外はほとんど変わりありません。ただ、実際にこの手術を受けた患者さまと接すれば接するほど、そしてあっという間に笑顔で退院する患者さまを目の当たりにすればするほど、術後1週間での回復の早さを実感させられてきました。1年後には差のない、ほんの数週間の間の差のために、日々労力と先端技術と先端器具を費す、これが腹腔鏡手術なのです。おなかの手術を受けることになった際には、是非このことを思い出していただきご相談いただければと思います。

黒崎 哲也 (くろさき てつや)

平成 3年 筑波大学卒
平成22年 板橋中央総合病院 入職

- ◆資格
- 日本外科学会 専門医
- 日本消化器病学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医
- 日本大腸肛門病学会 専門医
- 日本消化器外科学会 専門医
- 日本消化器外科学会 認定医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医

◆17年前に腹腔鏡手術と出会う。2年間のフランス留学で技術と伝道に力を注ぐ。楽で辛くなく、無駄がなく、病人らしくない入院生活を送り、早く元の日常生活に戻っていただくことが理想であり、基本方針。

医師紹介



心臓血管外科医師

(とうはら たかゆき)

氏名：東原 宣之

出身大学：帝京大学
 卒業年度：平成15年度卒
 資格：腹部ステントグラフト実施医
 専門分野：血管外科

～ごあいさつ～

平成19年より、板橋中央総合病院 心臓血管外科にて閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などを扱う血管外科医として日々精進しております。

腹部大動脈瘤の手術は開腹術による人工血管置換術が基本術式ですが、平成18年に日本でも企業製のステントグラフトが薬事承認され、全国で盛んに行われております。私は5年前よりその技術習得を熱望しておりました。人との縁や心臓血管外科スタッフの理解もあり、平成21年4月から約1年間北海道の室蘭で修練して参りました。翌日退院もできるほどのこの治療のすばらしさ、患者さまの負担の軽さを目の当たりにしてきました。

胸部大動脈瘤に関しても人工心肺を使用する手術でありましたが、動脈瘤の位置によっては鼠径部の4～5cm程度の傷で治療が可能となりました。当院を受診された一人でも多くの患者さまにこの身体に負担の少ない低侵襲手術を実感していただければ幸いです。患者さまとの縁を大切に、よりよい治療方法を一緒に考え、病気に立ち向かっていきたいと考えております。

眼科医長

(やまじ こうへい)

氏名：山路 浩平

出身大学：慶応義塾大学
 卒業年度：平成10年度卒
 資格：日本眼科学会認定専門医
 専門分野：眼科一般
 網膜・硝子体



～ごあいさつ～

この度、眼科責任者として赴任いたしました山路と申します。

生活習慣病である糖尿病患者数は増え続けており、それに伴い中途失明の原因とされる糖尿病網膜症の患者数も増える一方で、患者数は予備軍も含めると約1400万人に上ります。今後、板橋セントラルクリニック眼科では、糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患の手術を中心に力を入れていこうと考えております。また、今話題の加齢黄斑変性に関しては最新の診断機器を備えており、治療も行っております。

外科領域において、内視鏡手術のように身体に対する負担を軽減しようという手術が主流になっていますが、最近の白内障・網膜硝子体手術においてもその進歩は目覚ましく、眼球に作成する創口は小さくなり、以前より術後視力の回復も早くなっています。当院においても最新の小切開白内障・網膜硝子体手術を導入し、患者さまの眼に優しい手術を心がけています。その他の眼の病気に関しても可能な限り対応したいと考えておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。

～よろしくお願ひいたします～



当院で働くスタッフをご紹介します！
お仕事インタビュー
 vol.2

いきいきと働くスタッフにインタビュー！！
 今回は、入院患者さまに適切な栄養管理を行うNST（栄養サポートチーム）をご紹介します。活動内容について栄養科主任の府川範子さんにお話を伺いました。



●NST（栄養サポートチーム）とは？

平成17年4月1日より当院にてNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）が活動しております。NSTとは栄養管理による治療の一環で、早期回復や感染症・褥瘡などの予防に効果があるとされており、患者さまが必要とする栄養素（質・量）を摂取できる方法で提供し、健康を早く回復できるよう支援するチーム医療であり、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などで、週1回各病棟の回診を行っております。

●活動内容を教えてください

NSTの役割には、適切な栄養管理が施行されているかの確認、ふさわしい栄養管理法の指導・提言、栄養管理上の疑問に回答するなどがあります。当院では身体測定を行い、結果をもとに必要な栄養量を計画します。現状での栄養摂取量または投与量を算出し、必要に応じて食事内容や点滴のメニューを提案しております。栄養は生命の根源であり、私たちは病気を治す患者さま自身をサポートしていきます。

*褥瘡…身体と同じ部分に長時間の圧迫がかかり、皮膚組織の循環障害が起これば皮膚や組織が壊死すること。床ずれともいわれる。



月1回、NST勉強会を開催し、知識の向上と最新情報の獲得に努める



特殊な機器を用いての体重測定（回診）



個々の患者さまの栄養状態についてチームで話し合い、最適な栄養療法を検討する

開業医の部屋

当院と連携をとっている開業医の先生をご紹介します！

板橋中央総合病院 連携ネットワーク制度・・・
 地域の病院・診療所との医療連携のもとに専門医療での機能・役割を全うすることができるように、当院では地域医療連携を推進しています。

はすぬま内科

板橋区都営三田線「本蓮沼駅」近くに平成17年7月に開院した内科・循環器科の診療をしているクリニックです。また、健康診断・ED治療（男性の性機能障害）も行っております。地域の皆様に愛され、受診される方が気軽に健康に関して相談できるクリニックでありたい、と思います。初心を忘れず、わかりやすい指導とあたたかい医療を提供することを第一に診療を行ってまいります。些細な事でもお気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。



〈都営地下鉄三田線 本蓮沼駅〉徒歩3分
 〒174-0061
 板橋区大原町6-5カリレジデンス1階
 TEL：03-5916-1626
<http://www.hasunumanaka.com/>

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (9:00~13:00)	○	○	×	○	○	○	×
午後 (15:00~19:00)	○	○	×	○	○	×	×



かとう よしゆき
 院長 加藤 喜之
 平成元年 慶應義塾大学卒業
 資格 日本内科学会総合内科専門医
 日本医師会認定産業医
 東京都医師会糖尿病予防推進医
 日本腎臓学会認定専門医
 日本透析医学会認定専門医
 板橋区もの忘れ相談医